

史料番号	字句	よみ	意味
178	去 廿 瓦斯糸 細糸 錘 而して	サル ニジュウ ガスイト ホソイト スイ シコウシテ、シカシテ	先日 過ぎ去った 20 主に木綿糸をガスの炎の中を高速度で通過させ、表面の毛羽(けば)を焼き取って滑らかで光沢のある糸にしたもの 紡績糸で、40番手より細い糸 (番手数が大きくなるほど細い糸になる/恒重式綿番手) 紡錘の数を数えるのに用いる 紡錘(つむ/ぼうすい) = 糸をつむぐ機械の付属品 回転して糸を巻き取ると同時に糸をかける働きをする そして また それから
179	廿 遞減 尤も 返戻 目論見 定款 熟覧	ニジュウ テイゲン モットモ ヘンレイ モクロミ テイカン ジュ克蘭	20 数量がしだいにへること ただし 返したりもどしたりすること 計画 公益法人・会社・協同組合などの社団法人の目的・組織・活動などに関する根本規則 念を入れて詳しく見ること
180	統理	トウリ	統一しておさめること
181	捗取り 抛ち 名望家 無慮	ハカドリ ナゲウチ メイボウカ ムリョ	仕事が順調にどんどん進む 惜しげもなく差し出す 名声と人望のある人 おおよそ ざっと
182	頗る 能く 拳 殆んど 衰頹 極点 陸続 相生じ 明屋敷 過日来 明年 愈々 暁 舍宅 現今 明地 名大字町 周旋 悉皆 了し 一時に 浚渫	スコブル ヨク キョ ホトンド スイタイ キョクテン リクゾク アイショウジ アキヤシキ カジツライ ミョウネン イヨイヨ アカツキ シャタク ゲンコン アキチ メイオオアザマチ シュウセン シツカイ リョウシ イトキニ シュンセツ	とても よく 行動 くわだて ほぼ だいたい 衰退 勢いや活力が衰え弱まること 物事の度合いの最も高まったところ 次々と連なり続くさま 生じ 人の住んでいない屋敷 先日以来 次の年 とうとう いざ 実現したその際は 住居としての建物 家 いま 現在 建物が建っていないかったり、使われていない土地 名のある大きい町 なかだち 斡旋(あっせん) 残らず 全部 終了し 一度に 海底・河床などの土砂を、水深を深くするために掘削すること
183	尠なからぬ 騰貴 繁忙 篤と 勘考 軽拳 許り 抵り 目今 井水 陳じ 至極 尤も 伏込	スクナカラヌ トウキ ハンボウ トクト カンコウ ケイキョ バカリ イタリ モッコン セイスイ チンジ シゴク モットモ フシコメ	少なくない 物価や相場があがること 仕事が多くて忙しいこと じっくりと よく考えること 思索 軽はずみな行い …ほど …ぐらい 行く ただいま 井戸の水 申し述べる この上なく とても ただし 埋設
184	曩に 夫より 去月 凡 反歩 稲苗 俄に 須叟 擱き難き 則	サキニ ソレヨリ キョゲツ オオヨソ タンブ トウビョウ ニワカニ 須叟【シュユ】 オキガタキ スナワチ	先に 以前に それから 先月 大体 田畑の面積を反を単位として数えるのに用いる語 1反は991.74平方メートル 稲の苗 急に 突然 しばらくの間 放っておくのもむずかしい すぐさま

史料番号	字句	よみ	意味
185	溝渠 流会 悪水 間 起工方 旨 則 發議 参看 寡少 些少 忽ち 論を俟たず 灌溉 余水 要役地 一朝 旱水 素より 供用 使役 氾濫 充滿するに方り 如斯 斟酌 不拘 延て 町 能わされば 依て 自諾	コウキョ リュウカイ アクスイ ケン キコウカタ ムネ スナワチ ハツギ、ホツギ サンカン カシヨウ サシヨウ タチマチ ロンヲマタズ カンガイ ヨスイ ヨウエキチ イツチョウ カンスイ モトヨリ キョウヨウ シエキ ハンラン ジュウマンスルニアタリ カクノゴトク シンシヤク カカワラズ ヒイテ チョウ アタワザレバ ヨリテ ジダク	給水や排水のため、土を掘ったみぞ 会合が成立しないで取りやめになること 汚れた水 汚水 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 650間=1183m 工事を始めるにあたり 意向 すぐさま 会議の席で意見などを言い出すこと 参考として見比べること 参照 ごくわずか 数量や程度がわずかなこと すぐに 論じるまでもない 農作物の生育に必要な水を、水路を引くなどして供給し、耕作地をうるおすこと 余分の水 大事な役割の場所 ある日 ひとたび 干害と水害 以前から もともと 使用に充てること ～させる 水などが増してあふれ出ること ちょうど充滿することになり このような あれこれ照らし合わせて取捨すること …に関係なく 次いで また 更に 土地の面積の単位 1町は10反で約99.17アール 94町 = 0.9322 km ² ～できない したがって 自らはよろしいと承知する
186	大椿事 大要 悪水 予て 紛擾 竟に 去 顛末 曩に 依て 尺 間 十五間 三百間 許 放下 爾後 竣へ 愈 端なく 而して 石 流溢 一朝 斯かる 民口 独り 恣に 沙汰 片たり 激昂 烈しき 然るに 夫丈け 僻ごと	ダイチンジ タイヨウ アクスイ カネテ フンジョウ ツイニ サル テンマツ サキニ ヨリテ シヤク ケン 15ケン 300ケン バカリ ホウカ ジゴ オエ イヨイヨ ハシナク シコウシテ、シカシテ コク リュウイツ イツチョウ カカル ミンコウ ヒトリ ホシイママニ サタ カタタリ ゲキコウ ハゲシキ シカルニ ソレダケ ヒガミゴト	思いがけない重大な出来事 あらまし 概要 汚れた水 汚水 以前から 前から もめごと 紛争 とうとう 結局 先日 過ぎ去った 一部始終 いきさつ 先に 以前に したがって 尺貫法の長さの単位 1寸の10倍で30.3センチ 6尺=1.818m 尺貫法の長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 700間=1274m 27.3m 546m …ほど …ぐらい 投げ捨てること 以後 それ以来 終わる ついに 思いがけなく そして また それから 尺貫法の体積の単位 1石は10斗で、180.39℔ 17000石=3067m ³ 、3,067,000℔ 流れあふれる ある日 ひとたび このような こういう 人口 単独で 自分のしたいようにする 問題となるような事件 その是非が問われるような行為 すこしだけ ひどく怒ること 激高 はげしい それなのに その分だけ ひがむこと ひねくれた考えや気持ち

史料番号	字句	よみ	意味
	徴する 竣功 彼之する内 愈 さなきだに 益 竟に 近傍 切齒 予て 凝議 騎虎の勢 得物 派し 鎮撫 計 多勢に無勢 恰も 好し 暁 旁 詮方なく 慙い 抜劍 凌ぐ 却って 貽す 虞 説論 辞 一刹那 掩護 昇入れ 而して 忽然 暫し 脊部 儘 協はせて 名状すべからざる	チョウスル シュンコウ カレコレスルウチ イヨイヨ サナキダニ マスマス ツイニ キンボウ セッシ カネテ ギョウギ キコノイキオイ エモノ サシツカワシ チンブ バカリ タゼイニブゼイ アタカモ ヨロシ アカツキ カタワラ センカタナク ナマジイ バツケン シノグ カエツテ ノコス オソレ セツユ コトバ イッセツナ エンゴ カキイレ シコウシテ、シカシテ コツゼン シバシ セブ、セキブ ママ アワセテ メイジョウスベカラザル	照らし合わせる 工事が終了すること とやかくしている間に いろいろしている間に ついに そうでなくてさえ ただでさえ いっそう とうとう 近辺 付近 きわめて無念に思うこと 以前から 前から 熱心に相談を重ねること 途中でやめることができなくなる 武器 命じて人を差し向ける 派遣する 反乱や暴動などをしずめること …ほど …ぐらい 相手が多人数なのに対して少人数なので、勝ち目がないこと まるで まさしく ちょうどその時 可とする 実現したその際は 主となることをする一方 合間に どうしようもなく 中途半端 いいかげん 刀を鞘(さや)から抜くこと なんとか切り抜ける 反対に 逆に 後に残す 不安 心配 懸念 悪い行いを改めるよう言い聞かせること ことば ごく短い時間 一瞬間 かばって危険から守ること かつぎ入れる そして また それから にわかにか 突然 しばらく 背中 そのまま あわせる 物事のありさまを言葉で表現することができない
187	徹宵 前便 大要 広闊 耳目 惹く 創傷 緊要 包蔵 困却 毫も 然れ共 而して 窮策 紛擾 廿 即ち 直に 然るに 悪水 承諾 坪 堤塘 開鑿 宛然 誤謬	テツショウ ゼンビン タイヨウ コウカツ ジモク ヒク ソウショウ キンヨウ ホウゾウ コンキヤク ゴウモ シカレドモ シコウシテ、シカシテ キュウサク フンジョウ ニジュウ スナワチ タダチニ シカルニ アクスイ ショウダク ツボ テイトウ カイサク エンゼン ゴビュウ	夜どおし起きていること 夜どおし 前回の便り あらまし 概要 広々と開けていること 聞くことと見ること 見聞 関心をひく 皮膚などに生じたきず 切創・刺創・割創など、きず口の開いているきず 非常に重要なこと 差し迫って必要なこと 内部にもっていること 内にかくしてもつこと 困り果てること 少しも しかしながら そして また それから 追い詰められたあげくに考え出した案・方法 もめごと 紛争 20 とりもなおさず つまり すぐに それにもかかわらず それなのに 汚れた水 汚水 相手の意見・希望・要求などを聞いて、受け入れること 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 5200坪=17,160㎡ つつみ 土手 堤防 土地を切り開いて道路や運河などを通すこと そっくりそのまま まるで ちょうど まちがい

史料番号	字句	よみ	意味
	調製 復書 諾否 諮問 答申 酷令 頗る 必定 町歩 端なくも 活劇 兎も角 差支 爰に 閑視 訓令 掘鑿 偶々 蹂躪 包含 上衝 抛棄	チョウセイ フクシヨ ダクヒ シモン トウシン コクレイ スコブル ヒツジョウ チョウブ ハシナクモ カツゲキ トモカク サシツカエ ココニ カンシ クンレイ クツサク タマタマ ジュウリン ホウガン ジョウガ ホウキ	注文に応じてこしらえること 返事 承諾するかしないか 機関に意見を求めること 諮問を受けた事項について行政官庁に意見を具申すること 思いやりがなくむごい命令 とても きつと かならず 田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 思いがけなくも 映画・演劇の立ち回りのように激しく派手な格闘、乱闘 とにかく 支障 ここに なおざりにみる どうでもよいようにみる 上級官庁が下級官庁に対して、権限の行使を指揮するために命令を発すること 地盤や岩盤を掘り取ったり削り取ったりすること 掘って穴をあけること 凶らずも 思い掛けなくも ふみにじること 暴力・強権などをもって他を侵害すること 中にふくんでいること 上級官庁 投げ捨ててかえりみないこと
188	悪水 葛藤 并に 成議 為取替書 浚渫 悉皆 周旋 竣工 乃至 這回 万般 勿論 為後日	アクスイ カットウ ナラビニ セイギ トリカワセシヨ シュンセツ シツカイ シュウセン シュンコウ ナイシ シャカイ バンパン モチロン ゴジツノタメ	汚れた水 汚水 互いに譲らず対立し、いがみ合うこと 並びに および また 成立した議案 互いにやりとりする誓約書、覚書 海底・河床などの土砂を、水深を深くするために掘削すること 浚えること 全部 なかだち 斡旋(あつせん) 工事が終了すること …から…まで 今回 すべての事柄 言うまでもなく 後日のため
189	枯死 途 請議 可然 請願 客年 乃至 被認 至大 悉く 蒙り 遍く 衰滅 抑も 石 須叟 彷徨 甘受 茲に 洞察 督励 曩に 呈出 実地踏査 并に 属官 屢々 勿論 現今 鎮静 其儘	コシ ト セイギ シカルベキ セイガン カクネン ナイシ ミトメラレ シダイ コトゴトク コウムリ アマネク スイメツ ソモツモ コク 須叟【シュユ】 ホウコウ カンジュ ココニ ドウサツ トクレイ サキニ テイシュツ ジッチトウサ ナラビニ ゾツカン シバシバ モチロン ゲンコン チンセイ ソノママ	草木が枯れてしまうこと 物事を実現・解決するための方法 受けた議案 適当 こいねがうこと 去年 昨年 …から…まで 認められ この上もなく大きいこと すべて みな 身に受ける 広く 勢いが衰えて滅びること だいたい 尺貫法の体積の単位 1石は10斗で、180.390 43000石=7757m ³ 、7,756,7700 しばらくの間 さまようこと やむをえないものとしてあまんじて受け入れること この度 物事を観察して、その本質や、奥底にあるものを見抜くこと 監督し、励ますこと 先に 以前に 提出 現地に足を運んで調べること 並びに および また 上役に付き従う官吏 たびたび 言うまでもなく いま 現在 しずまり落ち着くこと もとのまま

史料番号	字句	よみ	意味
	氾濫 懼なきを 寧ろ 宜敷かる 兎に角 八ヶ間敷 挙 静謐 毫も 丁 尺 浸潤 懼 由 列べ 瀦水池 距てる 頻りに 頓着 殆んど 途に擁し 顧慮 峻拒 困厄 騷擾 然るに 堰止め 金円 食らん 呈し 濁溷 醸す 漏洩 至当	ハンラン オソレナキヲ ムシロ ヨロシカル トニカク ヤカマシク キョ セイヒツ ゴウモ チョウ シヤク シンジュン オソレ ヨシ ナラベ チョスイチ ヘダテル シキリニ トンチャク ホトンド トニヨウシ コリョ シュンキョ コンヤク ソウジョウ シカルニ セキトメ キンエン ムサボラン テイシ ダクコン カモス ロウエイ シトウ	水などが増してあふれ出ること 心配ないのを どちらかといえば 適当である いずれにしても ともかく うるさく 行動 くわだて 静かで落ち着いていること 少しも 尺貫法の長さの単位 1丁(町)は60間で、約109メートル 13丁=1420m 尺貫法の長さの単位 1寸の10倍で30.3センチ 3尺=90.9cm 液体がしみ込んでぬれること 心配 理由 わけ 並べ 水をためておく池 ～の距離 しばしば ひっきりなしに 深く気にかけてこだわること ほぼ だいたい 途中で取り囲み ある事をしっかり考えに入れて、心をくばること きっぱりと拒むこと 厳しい態度で断ること 苦しむこと 困難 難儀 集団で騒ぎを起こし、社会の秩序を乱すこと 騒乱 それなのに 流れなどをさえぎってとめる かね 金銭 欲張る 表す 示す いろいろなものがまじって濁ること 混濁 生みだす 水などが、もれること きわめて当然
190	編纂 葛藤 捕縛 紛擾 爰に 草案 抛りて 起原 大要 摘録 運漕 占む 殊に 高燥 頗る 貢米 然るに 曩に 浚渫 杯 衰頹 尠し 慶応三年 明治三十一年 盛衰 狂奔 茲に 已を得ざる 挙 稍 愈々 陸続	ヘンサン カットウ ホバク フンジョウ ココニ ソウアン ヨリテ キゲン タイヨウ テキロク ウンソウ シム コトニ コウソウ スコブル コウマイ シカルニ サキニ シュンセツ ナド スイタイ スクナシ ケイオウ3ネン メイジ31ネン セイスイ キョウホン ココニ ヤムヲエザル キョ ヤヤ イヨイヨ リクゾク	いろいろの材料を集め、整理・加筆などして書物にまとめること 互いに譲らず対立し、いがみ合うこと とらえてしぼること 逮捕 もめごと 紛争 ここに この時 文章、特に規約などの下書き・原案 よりどころとして 物事の起こり 始まり あらまし 概要 要点をかいつまんで書き記すこと 船で貨物を運ぶこと 占める とりわけ 土地が高く湿気が少ないこと とても 年貢として納める米、納められた米 それなのに 先に 以前に 海底・河床などの土砂を、水深を深くするために掘削すること 等 衰退 勢いや活力が衰え弱まること 少ない 1867年 1898年 物事の盛んになったり衰えたりすること ある目的のために夢中になって奔走すること ここに 仕方がない 行動 計画 少しばかり ついに 次々と連なり続くさま

史料番号	字句	よみ	意味
	騰貴 爾来 連檐 將に 昔日 敢て～ざる	トウキ ジライ レンタン マサニ セキジツ アエテ～ザル	物価や相場があがること それ以来 家屋が檐(のき)を連ねること 道路に面して建物が密に並んでいるようす 今にも むかし 往時 決して～ない
191	旱魃 差支 新井堰 懼 四カ井 彼是 廿日	カンバツ サシツカエ シンユゼキ オソレ ヨンカイ カレコレ ハツカ	ひでり 農作物に必要な雨が長い間降らないこと 支障 新しい用水路 用水路の新しい水止め 心配 高砂、荒井、小松原、古新への用水路 とやかく いろいろ 20日
192	霸王 恣に 蓋し 目醒しき 殊に 相俟つて 席捲 斯くして 茲に 専ら 抄造 而して 屢々 現今 殆ど 遜色 抄紙 封度 坪 就役 汎く 活版 石版 アルミ版 旭日昇天 宜しき 売捌 依託 不退転 蟠居 加之 衝に当れる	ハオウ ホシイママニ ケダシ メザマンキ コトニ アイマッテ セッケン カクシテ ココニ モッパラ ショウゾウ シコウシテ、シカシテ シバシバ ゲンコン ホトンド ソンショク ショウシ ポンド ツボ シュウエキ ヒロク カッパン セキバン アルミハン キョクジツショウテン ヨロシキ ウリサバキ イタク フタイテン バンキョ シカノミナラズ ショウニアタレル	覇者と王者 思いのままに まさしく たしかに 驚くほどすばらしい とりわけ 一緒になって はげしい勢いで、自分の勢力範囲をひろげること こうして ここに ひたすら ただただ 紙の原料をすいて紙を製造すること そして また それから たびたび いま 現在 おおかた 大部分 見劣り 紙をすくこと ヤード-ポンド法の質量の基本単位 常用ポンドは1ポンドが16オンスで約453.59237グラム 三百万封度=1360t 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 一万二千坪=39600㎡ 三万坪=99000㎡ 役務などにつくこと 広く行き渡る 活字を組み並べて作った印刷用の版 また、それによる印刷 石版石の表面に脂肪性インクで文字や絵などをかき、水と脂肪の反発性を利用して印刷する 砂目を立ててあるアルミ版に、直接クレヨン、解墨、ダーマトグラフなどの油性の性質の 描画材料で描画する方法(アルミ版の代表的なもの) 朝日が天にのぼるように、勢いが盛んなこと ちょうどよいこと 適切なこと 商品を広い範囲に上手に売る 他の人にまかせてやってもらうこと 委託 信念を持ち、何事にも屈しないこと 場所を占めて勢力をもつ そればかりでなく それに加えて 重要な役目を受け持つ
193	坪 行掛 殆んど 思惟 見做せる 予て 町歩 反 椿事	ツボ ユキガカリ ホトンド シイ ミナセル カネテ チョウブ タン チンジ	土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル すでに手を引くことができない状態にあること なりゆき おおかた 大部分 考えること 思考 そうだと思って見る みなす 以前から 前から 田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 1町は10段で約99.17アール 土地の面積の単位 1反は991.74平方メートル 思いがけない重大な出来事 一大事
194	承諾 拘らず 専ら 地所 仍て 斯くて 袖を聯ね 説示	ショウダク カカワラズ モッパラ ジショ ヨッテ カクテ ソデヲツラネ セツジ	相手の意見・希望・要求などを聞いて、受け入れること …であるのに ひたすら ただただ 土地 地面 そのために 従って こうして 行動を共にする わかりやすく説き示すこと

史料 番号	字句	よみ	意味
	懇諭 依て 由 尤も	コンユ ヨリテ ヨシ モットモ	親切に言って聞かせること よって …とのこと 当然
195	依り 可及丈 誓言 漸次 茲に 町歩 儘 地所 約諾 開鑿 後來 承諾 反歩 避病院 違背 履行 得可く	ヨリ デキルダケ セイゴン、セイゲン ゼンジ ココニ チョウブ ママ ジショ ヤクダク カイサク コウライ ショウダク タンブ ヒビョウイン イハイ リコウ ウベク	よって 及ぶかぎり できるだけ 言葉に出して誓うこと また、その言葉 しだいに だんだん ここに 田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 1町は10段で約99.17 アール そのまま 土地 地面 約束して承知すること 土地を切り開いて道路や運河などを通すこと こののち 将来 相手の意見・希望・要求などを聞いて、受け入れること 田畑の面積を反を単位として数えるのに用いる語 1反は991.74平方メートル 法定伝染病の患者を隔離・収容する伝染病院のこと 違反 決めたことなどを実際に行うこと 実行 …することができる
196	町歩 悉皆 其儘 而して 由	チョウブ シツカイ ソノママ シコウシテ、シカシテ ヨシ	田畑などの面積を町(ちょう)を単位として数えるのに用いる語 1町は10段で約99.17 アール 残らず 全部 そのまま そして また それから …とのこと
197	依て 当撰 附則 地所 約諾 石堰 可成 結了 悪水 坪	ヨリテ トウセン フソク ジショ ヤクダク イシセキ カナリ ケツリョウ アクスイ ツボ	よって 当選 法令の構成要素のうち、主要事項(本則)に付随する必要事項を定めた部分 土地 地面 約束して承知すること 水を取るため、川の途中や流出口などに設けて流水をせき止める構造物 かなり 事がすべて終わること 終了 汚れた水 汚水 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル
198	進捗 聘して 療治 而して 由 廉なる 技倆 依り 賄 幻灯 活動写真	シンチョク ヘイシテ リョウジ シコウシテ、シカシテ ヨシ レンナル ギリョウ ヨリ マカナイ ゲントウ カツドウシャシン	物事がはかどること 礼を厚くして人を招く 招聘(しょうへい)する 病気やけがを治すこと 治療 そして また それから …とのこと 値が安いこと 安価 ある物事を行う能力 腕前 技量 よって 下宿・寮などで作って出す食事 フィルムに写した像などを一枚ずつ強い光で照らし、前方に置いた凸レンズで拡大し、映 写幕へ映して見せるもの 映画の旧称
199	凡そ 竣工 間 駄 而して 言を俟たず 歩調 即ち	オオヨソ シュンコウ ケン ダ シコウシテ、シカシテ ゲンヨマタズ ホチョウ スナワチ	だいたい 工事が終了すること 長さの単位 1間はふつう6尺(約1.82メートル)の長さ 650間=1183m 助数詞 馬1頭に負わせる荷物の量を1駄として、その数量を数えるのに用いる そして また それから 言うまでもない もちろんである 足並み つまり
200	已に 斯界 万端遺漏なき 余興 籤 煙火 簞笥 角力 伊勢神楽	スデニ シカイ バンタンイロウナキ ヨキョウ クジ エンカ タンス スモウ イセカグラ	以前に 前に この分野 あらゆる事柄についての手落ちがない 宴会などで、興をそえるために行う演芸 くじ 花火 タンス 相撲 神楽の一 伊勢外宮各社で行われた神楽が広まったもの

史料番号	字句	よみ	意味
	化粧行列 検番 壇尻 仁輪加芸 屋台 昇ぎ出す 詰切らす 由 因	カソウギョウレツ ケンバン ダンジリ ニワカゲイ ヤタイ カツギダス ツメキラズ ヨシ チナミニ	人々が思い思いに仮装して練り歩く行列 芸者を登録させ、客席に出る芸者の取り次ぎや玉代(ぎょくだい)の計算などの事務を扱った所 祭礼の際の練り物の一 車のついた屋根つきの屋台で、中で囃子(はやし)物をしながら引き回す 素人が、宴席や街頭で即興に演じた劇 ヤッサ 本太鼓 (屋台を)かつぎ出す その場所に絶えずいること つめつきり …とのこと ついでに言う
201	建議 并に 輓近 稍 長足 奈何せん 而も 困憊 抱擁 焦慮 夙に 町是 所以	ケンギ ナラビニ バンキン ヤヤ チョウソク イカンセン シカモ コンパイ ホウヨウ ショウリョ ツトニ チョウゼ ユエン	意見を申し立てること 並びに および また ちかごろ 最近 少しばかり 進み方の速いこと 残念にも どうしたものか しかも その上 困って疲れはてること だきかかえること あせっていらだつこと いらいらと気をもむこと ずっと以前から 早くから 町の方針 理由 わけ
202	陳は 予て 愈々 実施可致事 略ぼ 纏り 茲許御送附申 御審議被成下 謹言 諒解 此辺御含被下 竣成 爾後 石 抛る 不可抗力 能はざる 予め 承諾 分水井 并に 因り 止むことを得ず 茲に 履行 実施相成度 可成 参酌 為念得貴意候也	ノブレバ カネテ イヨイヨ ジッシイタスベキコト ホボ マトマリ 上候間 ココモトゴソウフモウシアゲソウロウアイダ 候様願度此段得貴意候 ゴシンギナシクダサレソウロウヨウネガイタクコノダンキイヲエソウロウ キンゲン リョウカイ 度申添候 コノアタリオフクミクダサレタクモウシソウロウ シュンセイ ジゴ コク ヨル フカコウリョク アタワザル アラカジメ ショウダク ブンスイセイ ナラビニ ヨリ ヤムコトヲエズ ココニ リコウ ジッシアイナリタク カナリ サンシャク ネンノタメキイヲエソウロウナリ	さて 候文などの手紙で、時候のあいさつの次、本文の書き出しに用いる あらかじめ 前もって とうとう ついに 実施致すことに おおよそ だいたい 決まりがつく 当方からご送付申上げますので ご審議くださるよう この件のお考えをうけたまわります つつしんで言上すること 手紙の結びに用いて、相手に敬意を表す語 理解して承認すること 了承 このあたり(趣意)をお含みくだされたく申し添えます 大規模な建築物などができ上がること 竣工 それ以来 以後 尺貫法の体積の単位 1石は10斗で、180.390 …による 人間の力ではどうにもさからうことのできない力や事態 …できない あらかじめ 前もって 相手の意見などを聞いて、受け入れること 川から取り入れた水を濾過池に分ける所 並びに および また …により 仕方がなく どうしようもなく ここに 決めたことなどを実際に行うこと 実行 実施して欲しく かなり 他のものを参考にして長所を取り入れること 念の為お考えをうけたまわります
203	洗滌 沈澱 然るに 因り 洵に 尠少 乃ち 呈して	センデキ、センジョウ チンデン シカルニ ヨリ マコトニ センショウ スナワチ テイシテ	洗い清めること 洗淨 溶液中にまじっている微小固体が底に沈んでたまること それなのに …により じつに 本当に 非常に少ないこと わずか 言いかえれば つまり ある状態を表す 示す

史料番号	字句	よみ	意味
	滔々 膠質 溷濁 翻て 殊に 汲取 輻湊 殆ど 枚挙 遑 如斯 將た 如上 蒙むれる 豈～らんや 然り而して 仄聞 元より 窺ふ 芟除 茲に 濾過 大計 苟も 十全 虞 稟請 河身 際会 旧臘 一と先づ 而して 仍て 休戚 陳情	トウトウ ニカワシツ、コウシツ コンダク ヒルガエツテ コトニ クミトリ フクソウ ホトンド マイキョ イトマ カクノゴトシ ハタ ウエノゴトシ コウムレル アニ～ランヤ シカリシコウシテ ソクブン モトヨリ ウカガウ サンジヨ、センジヨ ココニ ロカ タイケイ イヤシクモ ジュウゼン オソレ リンセイ カシン サイカイ キュウロウ ヒトマズ シコウシテ、シカシテ ヨツテ キュウセキ チンジヨウ	水がとどまることなく流れるさま コロイド=0.1～0.001マイクロメートル程度の極微細な粒子が、液体・気体・固体などの媒体中に分散している状態 いろいろなものがまじって濁ること これとは反対に これとは別に とりわけ 水をくみ上げる 四方から寄り集まること 物事がひとところに集中すること おおかた 大部分 いちいち数え上げること ひま このような あるいは そのうえまた 前述した 身に受ける どうして～であろうか そして そこで 少し耳にはいること 人づてやうわさなどで聞くこと 言うまでもなく それとなくようす、状況を察する よくないものを取り除くこと ここに 液体や気体を多孔質の物質に通して固体粒を取り除くこと 大規模な計画 仮にも もしも 十分に整っていて、危なげのないこと 万全 不安 心配 懸念 上部機関などに申し出て請求すること 川の流れる部分 時機にたまたま出あうこと 去年の12月 とりあえず さしあたって そして また それから そのために 従って 喜びと悲しみ 幸と不幸 中央や地方の公的機関などに、実情を訴えて善処してくれるよう要請すること
204	稟請 依り 黜からず 被むれる 洵に 即ち 將た 普く 拘らず 敢て 悠久 而して 起債 所以	リンセイ ヨリ スクナカラズ コウムレル マコトニ スナワチ ハタ アマネク カカワラズ アエテ ユウキュウ シコウシテ、シカシテ キサイ ユエン	上部機関などに申し出て請求すること よって すくなからず 受ける じつに 本當に つまり あるいは そのうえまた もれなくすべてに及んでいる 広く 一般に …であるのに 進んで 強いて 果てしなく長く続くこと 長く久しいこと そして また それから 地方公共団体などが、財政資金や事業資金を調達するために債券を発行すること 理由 わけ
205	下附 稟請 而して 無止 補填 然るときは 勢 虞 起債	カフ リンセイ シコウシテ、シカシテ ヤムナク ホテン シカルトキハ イキオイ オソレ キサイ	官庁から金や物をさげわたすこと 上部機関などに申し出て請求すること そして また それから しかたがなく 不足・欠損部分を補って埋めること その場合は なりゆき 不安 心配 懸念 地方公共団体などが、財政資金や事業資金を調達するために債券を発行すること
206	立法尺 因り 連檐戸数 町 而して	リップウシャク ヨリ レンタンコスウ チョウ シコウシテ、シカシテ	尺貫法の容積の単位 1立方尺=0.02783 m ³ 六万七千五百立方尺=1878m ³ …により 世帯数 連檐=家屋が檐(のき)を連ねること 尺貫法の長さの単位 1町は60間で、約109メートル そして また それから
207	見做し 石 徴集	ミナシ コク チョウシュウ	そうだと思つて見る みなす 尺貫法の体積の単位 1石は10斗で、180.390 金銭・物品を取り立てたりすること

史料番号	字句	よみ	意味
208	陳情 日子 竣成 倚りて 生靈 而して 井堰 依りて 唧筒 揚水 沈澱池 一朝 旱天 忽ち 涸渴 加之 鹹水 甚大 瀬堀 些かに 繫続 伏流水 暁 さなきだに 招来 瞭かなり 願うに 殷鑑遠からず 尠し 叙上 友町 衷心 希ふ 音 諒とせられ 詮議 切願 禁へず	チンジョウ ニッシ シュンセイ ヨリテ セイレイ シコウシテ、シカシテ イセキ ヨリテ ショクトウ、ソクトウ ヨウスイ チンデンチ イツチョウ カンテン タチマチ コカツ シカミナラズ カンスイ ジンダイ セホリ イササカニ ケイゾク フクリュウスイ アカツキ サナキダニ ショウライ アキラカナリ オモウニ インカントオカラズ スクナシ ジョジョウ ユウチョウ チュウシン コイネガウ タダ リョウトセラレ センギ セツガン キンジエズ	中央や地方の公的機関などに、実情を訴えて善処してくれるよう要請すること 日数 建築物などができ上がること 竣工 よって 人類 民 生命 そして また それから 水を他へ引いたり流量を調節したりするため、川水をせきとめる所 よって ポンプのこと 水を高所にあげること 溶液中にまじっている微小固体を底に沈めてためる池 ある日 ひとたび 久しく降雨がなく日照りが続くこと すぐに 水がかれること そればかりでなく それに加えて 塩からい水 塩分を含む水 程度のきわめて大きいさま 掘削 ほんの少し わずか 継続 川の砂礫(されき)層などの地下を流れる水 実現したその際は そうでなくてさえ ただでさえ 招く はっきりしている 考えるに 戒めとすべき例はごく身近なところにあるものだというたとえ 殷鑑＝戒めとすべき、失敗 の前例 少ない 前に述べたこと 前述 仲の良い町 心の底 切望する ひたすら ただただ よしとする もっともだとして承知する 評議して明らかにすること 心から願うこと 止まない
209	遊廓 娼妓 然も 勿論 遊客 風教 殊に 延ひて 慮り 唱道	ユウカク ショウギ シカモ モチロン ユウカク フウキョウ コトニ ヒイテ オモンバカリ ショウドウ	遊女屋の多く集まっている一定の区域 特定の地域内で公認されて売春をした女 そのうえ 言うまでもなく 旅人 旅客 徳をもって人々を教え導くこと とりわけ さらに進んで それによって おもんばかりのこと 計略 ある思想や主張を人に先立って唱えること
210	頗る 優に 機業 現然 嫌疑 蔓延 困窮 現今 需むる 能はず 就事 乃至 尠なからざる	スコブル ユウニ キギョウ ゲンゼン ケンキ、ケンギ マンエン コンキユウ ゲンコン モトムル アタワズ シュウジ ナイシ スクナカラザル	とても 十分に らくに 織物をつくる事業 織物業 明らかに見えるさま ひどくいやがること 悪習などがいっばいに広がること 困り果てること いま 現在 求める …できない 従事 …から…まで 少なくない
211	敢て 予て 悪風 科料	アエテ カネテ アクフウ カリョウ	進んで 強いて 以前から 前から 悪い風俗や習慣 軽微な犯罪に科する財産刑で、刑の序列としては罰金より軽い とがりょう
212	啓上	ケイジョウ	申し上げること 手紙に用いる

史料番号	字句	よみ	意味
	納米 廻漕 恰も 現今 蒸汽 頗る 殷賑 呈し 俄に 漸次 逐はれて 廿 宛然 於之 頽勢 焦慮 地均し 変潮 時運 其儘 即ち 折柄 茲に 稍 蘇生 坪 地所 騰貴 趨勢 俄然 突飛 暴騰 俄に 店出し 忽ち 盛運 卅 余喘 検番 杯 過勢 汲々 港口	ノウマイ カイソウ アタカモ ゲンコン ジョウキ スコブル インシン テイシ ニワカニ ゼンジ オワレテ ニジュウ エンゼン コレニオイテ タイセイ ショウリョ ジナラシ ヘンチョウ ジウン ソノママ スナワチ オリカラ ココニ ヨウヤク ソセイ ツボ ジショ トウキ スウセイ ガゼン トッピ ボウトウ ニワカニ タナダシ タチマチ セイウン サンジュウ ヨゼン ケンバン ナド カセイ キュウキュウ コウコウ	年貢米 物資などを船で運送すること まるで まさしく いま 現在 蒸気 とても 活気があつてにぎやかなこと 表す 示す 急に しだいに だんだん おいこめられて 20 そっくりそのまま まるで ちょうど この時になって 勢いが衰えること 退勢 あせつていらだつこと いらいらと気をもむこと 地面の高低やでこぼこをなくし、平らにすること 世の中の流れが変わること 時のめぐり合わせ 時の運 そのまま つまり ちょうどその時 折しも ここに やっと 息をふきかえすこと よみがえること 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 5200坪＝17,160㎡ 土地 地面 物価や相場があがること 社会などの、全体の流れ にわかに 急に あまりにも思いがけないさま 物価などが急激に大幅に上がること 急に 出店 店を出す すぐに 物事が栄える方向に向かっていること 30 死ぬまぎわの今にも絶えそうな息 虫の息 芸者を登録させ、客席に出る芸者の取り次ぎや玉代(ぎよくだい)の計算などの事務を扱った所 等 行き過ぎた情勢 あくせくしてゆとりのない 港の出入り口
213	賃銀	チンギン	賃金
214	露払ひ 潑刺 わけても 鎬を削つて 御仁 由 無産党 捲席 ブル プロ 対峙 渴仰者 阿房 モーダン	ツユハライ ハツラツ ワケテモ シノギヨケズツテ ゴジン ヨシ ムサントウ ケンセキ ブル プロ タイジ カツゴウシャ アボウ モーダン	先導をすること(その人) 生き生きとして元気のよいさま 特に 激しく争う お方 (ひやかしの気持ちを含んで用いることもある) …とのこと 労働者や貧農など無産階級の利益や意思を代表する政党 はげしい勢いで、自分の勢力範囲をひろげること 席捲 ブルジョアの略＝近代資本主義社会で、資本家階級に属する人 金持ち プロレタリアの略＝自分の労働力を資本家に売って生活する賃金労働者 対立する者どうしが、にらみ合ったままじっと動かずにいること 心からあこがれ慕う者 愚かなこと モダン 現代的であること 今風でしゃれていること
215	遊廓 娼妓 置屋 享楽 登楼者 玉代 楼主	ユウカク ショウギ オキヤ キョウラク トウロウシャ ギョクダイ ロウシュ	遊女屋の多く集まっている一定の区域 特定の地域内で公認されて売春をした女 芸者や遊女を抱えている家 料亭などの客の求めに応じて芸者や遊女を差し向ける 思いのままに快樂を味わうこと 妓楼(ぎろう)にあがって遊ぶ人 芸者や娼妓(しょうぎ)などと呼んで遊ぶための代金 妓楼(ぎろう)の主人
216	花柳界	カリユウカイ	芸者や遊女の社会

史料番号	字句	よみ	意味
	検番 芸妓 閑古鳥鳴く 漸次 両妓 ヂヤズ	ケンバン ゲイギ カンコドリナク ゼンジ リョウギ ヂヤズ	芸者を登録させ、客席に出る芸者の取り次ぎや玉代(ぎょくだい)の計算などの事務を扱った所 歌舞や音曲などで、酒宴の座に興を添えることを業とする女性 芸者 客が来なくて商売がはやらないさま しだいに だんだん 二人の芸妓 ジャズ
217	誓文払 蓋を開けた タンマリ BK 廿 催馬楽 殊に 偲ぶ 肝入り 挨拶 細大 俚謡 雅歌 大喝采 裡	セイモンバライ フタヲアケタ タンマリ ビーケイ ニジュウ サイバラ コトニ シノブ キモイリ アイサツ サイダイ リョウ ガカ ダイカッサイ リ	歳末大売り出し 始まった たくさん どころり NHK大阪放送局 コールサインのJOBKの略から「BK」と呼ばれる 20 平安初期ごろに成立した歌謡の一 上代の民謡などを外来の唐楽の曲調にのせたもので、笏拍子(しゃくびょうし)・笙(しょう)・箏(ひちりき)・竜笛(りゅうてき)・琵琶・箏(そう)を伴奏とする とりわけ 思いおこして懐かしむ 双方の間を取りもって心を砕き世話を焼くこと あいさつ 細かいことと大きなこと 民間でうたわれている歌 民謡 みやびやかな歌 格式の高い歌 声を上げて褒めそやすこと …うち
219	撞球 度量衡器 燐寸 芸妓 現株 太物 小間物 青物 荒物 指物 表具 襦袢 屑物 洗張 苧	ドウキウ ドリョウコウキ マッチ ゲイギ ゲンカブ フトモノ コマモノ アオモノ アラモノ サシモノ ヒョウグ ボロ クズモノ アライバリ スサ	ビリヤード 玉突き 度量衡をはかる器具 物差し・枘(ます)・秤(はかり)の総称 マッチ 歌舞や音曲などで、酒宴の座に興を添えることを業とする女性 芸者 実株=取引で、実際に受け渡しされる株 絹織物を呉服というのに対して、綿織物・麻織物など太い糸の織物の総称 日用品・化粧品などのこまごましたもの 青色の野菜 ほうき・ちり取り・ざるなど、簡単なつくりの家庭用品 板をさしあわせて作った家具や器具 たんす・箱・机の類 紙・布などをはって、巻物・掛け物・帖(じょう)・屏風(びょうぶ)・ふすまなどに仕立てること 使い古しの布 ぼろきれ 使い古して、いらなくなったもの 廃品 着物を解いて洗い、のりをつけて広げた布を、張り板に固着させたり、伸子針(しんしばり)で張ったりして乾かす方法 壁土のひび割れを防ぐため、すきまに入れる、わらや紙などを細く切ったもの
220	招聘 所感 名にし負う 即ち 軒灯 所謂 呈する 行人 兎角 目貫 金城鉄壁 對手 窺ひ 然れば 逐行 等閑 偕て 沈類 此の儘	ショウヘイ ショカン ナニシオウ スナワチ ケントウ イワユル テイスル コウジン トカク メヌキ キンジョウテツペキ タイシュ ウカガイ シカレバ チクコウ トウカン、ナオザリ サテ チンタイ コノママ	礼を尽くして人を招くこと まねく 感想 名に、その実体を伴う また、その名とともに評判される つまり 軒先につけるあかり 俗に言う よく言う ある状態を表す 示す 道を行く人 旅人 ともすれば どうかすると 目立つこと 中心的であること 守りが非常に固いこと、まったくすきがないことのとえ 相手 状況を察する そうであるから だから 後追いする いいかげんにしておく 本気でない さて ところで 沈滞 意気が上がらずに停滞していること このまま
222	地所 反歩 早晚	ジショ タンブ ソウバン	土地 地面 田畑の面積を反を単位として数えるのに用いる語 1反は991.74平方メートル おそかれはやかれ いずれ
224	払底 就中 殷賑 招来 菴	フッテイ ナカンズク インシン ショウライ タダ	すっかりなくなること 乏しくなること その中でも とりわけ 活気があってにぎやかなこと 招く 呼ぶ ひたすら ただただ

史料 番号	字句	よみ	意味
	考究 依り 衛戍地 俟つ 途	コウキュウ ヨリ エイジュチ マツ ト	深く考え、その意味や本質を明らかにすること よって 軍隊が長く駐屯して防衛する重要地域 待つ 物事を実現・解決するための方法